第46回コンクリート工学講演会 | A. 材料・施工 | 環境配慮型コンクリート（材料）

環境配慮型コンクリート（材料）4

座長:伊藤正憲(土木),鹿毛忠継(建築)
2024年6月27日(木) 13:15 〜 15:00 第2会場 (小展示室B)

[1241]炭酸化モルタルの固定二酸化炭素量測定結果に及ぼす前処理時の雰囲気と水分状態の影響

横川勇輝[1], 横関康祐[1] (1.東洋大学)

キーワード：炭酸化、固定二酸化炭素量、クーロメーター、前処理方法、熱分析、グローブボックス

環境配慮の観点から炭酸化コンクリートが注目されており，固定二酸化炭素量の測定方法について機器分析の検討が多くなされているものの，試料の前処理方法について検討された例は少ない。そこで，本研究では，水中養生または炭酸化養生を行ったモルタルを大気もしくは不活性ガス雰囲気に放置した試料の固定二酸化炭素量の評価を行った。その結果，不活性ガス雰囲気の試料は炭酸化が確認できなかったが，大気放置した試料は炭酸化の進行が確認された。また，試料を絶乾状態ののちに大気に放置した場合，水中養生試料は炭酸化の進行が確認されたが，炭酸化養生試料は前処理時における炭酸化の進行は確認されなかった。

©公益社団法人 日本コンクリート工学会